

7 国際交流

進捗状況報告

アジアの諸大学や神学系教育機関との国際交流推進につき、以下のような動きがあった。

(1) メソジスト神学大学（韓国）との間で学術文化交流協定を締結した（2006年3月）。協定に基づき、当該大学教員を迎えての学術講演会（「韓国における宗教間の対話－クリスチャン・アカデミーを中心として」2006年11月）を開催した。また、2004年度に引き続き、2007年度に当該大学120周年記念シンポジウムとして本学教員の招待講演が予定されているなど、教員レベルの交流が活発化している。また研究員に関しては、2007年度に大学制度の活用における受託研究員1名を受け入れ、また本学大学院研究員が当該大学の客員教授に就任するなどの積極的な交流が生まれている。

(2) 南京大学・金陵協和神学院（中国）理事長を団長とした中国基督教協会訪日代表団の受け入れに神学部教員も大きく関わり、キリスト教と文化研究センターと共催で「今日の中国におけるキリスト教」と題した講演会を開催した（2007年4月）。当該神学院へは、本学部教員レベルで訪問・交流も行っている。

また、ヨーロッパにおいては、アムステルダム・フライ大学（オランダ）との大学間交流を締結すべく、現在、神学部教員の提言により、大学の国際教育・協力センターにおいて具体的な検討が進められている。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

国際交流については、国外において伝道者として活躍する人材を輩出することも重視する。卒業生は、2005年までに以下のような国や地域の教会や各種機関に在籍し、宣教活動にあたっている。

ハワイ（以上、アメリカ合衆国）
トロント、バンクーバー、ハミルトン、モントリオール（以上、カナダ）
ヴェチコン、ウスター（以上、スイス連邦）
マンハイム、ロイトリングゲン（以上、ドイツ連邦共和国）
サラワク（以上、インドネシア共和国）
チャンドラゴーナ（バングラディシュ）など。

学内第三者評価

メソジスト神学大学や南京大学・金陵協和神学院との国際交流は評価できる。今後も協定大学との交流を進めることが期待される。

なお、特別委員からは以下の意見があった。

- ・小規模の学部としては努力の跡が見られる。今後は国際的により積極的な発言が期待される。